

## 1. がんについて相談したい

### (1) がん相談支援センター

がんの治療や療養生活全般に関して、患者さんやご家族と一緒に考え、情報をさがすお手伝いをしています。

納得して治療を受けるためにも、ご自身のがんを知って向き合うことは大切です。相談内容が、ご本人の了解なしに担当医はじめ、他の方に伝わることはありません。安心してご相談ください。

治療費や手術にかかる費用が心配です。

➡ P68

セカンドオピニオンってなんだろう。

➡ P24

退院することになったけれど、どうしたらいいの。

➡ P56

大切な人ががんと告げられたら。

➡ 綴じ込み

仕事を続けてもいいのだろうか。

➡ P78

先生から病気について説明を受けましたが、難しくてよくわかりません。

➡ P23

がんと言われ、頭の中が真っ白です。これからのことを考えると不安でいっぱいです。

➡ 綴じ込み

コチラもCheck!

➡ P29 「がん相談支援センターにご相談ください」

### ■ 沖縄県内のがん相談支援センター

がん患者さんやご家族ががん相談支援センターのある病院に通院していなくても、電話または面談などの方法で、無料で相談できます。

ご相談は、看護師やソーシャルワーカー（社会福祉士）などのがん相談の専門スタッフが、内容によっては専門家と連携を図りながら、お応えしています。



琉球大学医学部附属病院 ☎ 098-895-1507

対応日時：月～金曜日・9時～16時半  
<http://www.ryukyucc.jp/section/42>

沖縄県立中部病院 ☎ 098-973-4111（内線3232）

対応日時：月～金曜日・9時～17時  
<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/chubu/cancertx/#4227>

那覇市立病院 ☎ 098-884-5111（内線127、283）

対応日時：月～金曜日・9時～17時  
<http://www.nch.naha.okinawa.jp/shinryouka-kakubu/kakubu/sougousoudan.html>

北部地区医師会病院 ☎ 0980-54-1111

対応日時：月～金曜日・9時～17時  
<http://hokubuishikai.com/gansoudan/>

沖縄県立宮古病院 ☎ 0980-72-3151

対応日時：月～金曜日・9時～17時  
[http://www.hosp.pref.okinawa.jp/miyako/shinryoannai/tiki-nandemo\\_room.html](http://www.hosp.pref.okinawa.jp/miyako/shinryoannai/tiki-nandemo_room.html)

沖縄県立八重山病院 ☎ 0980-83-2525

対応日時：月～金曜日・9時～17時  
<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/yaeyama/>

※前ページで紹介した病院以外でも、ソーシャルワーカー(社会福祉士)が様々な相談に対応しています。各病院の医療福祉相談室・地域医療連携室へお問い合わせください。

 一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会  
http://www.msw-oaswhs.jp



## (2) 沖縄県医療安全相談センター

医療上または医療内容に関する相談、医師、その他の職員の対応など、医療に関する相談および苦情などがございましたら、沖縄県医療安全相談センターにご相談ください。

医療安全相談窓口 ☎098-866-1260 (相談専用)

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 沖縄県庁4階  
沖縄県保健医療部 医療政策課内 FAX:098-866-2714  
受付時間:月~木曜日(祝日のぞく)・9時~12時、13時~17時



## 私を支えてくれたもの

私は10歳のときにがんを発病し、16歳で治癒しました。告知をされたときは、地元の学校に通えなくなることで、「病院で勉強できるの?」「友だちと遊べなくなるの?」など多くのことに悩みましたが、入院してすぐに院内学級で勉強を始めることができ、同じ病気と闘う友人もできました。闘病中は、元の学校の友だち、病院で知り合った友だちとの文通を通じて多くの人とつながりができ、それは私にとって本当に大きな支えでした。

当時はインターネットも普及しておらず、がんに関する情報も少なく、母はがんに関する情報を図書館や書店で得ていたようです。最近では、ウェブサイトや書籍からがんに関する情報も多く得ることができます。また、多くの病院では相談員が常駐しています。ぜひ、そのような場を活用してほしいと思います。悩みを自分の中だけでためず、多くの専門家や地域の情報を知ることによって解消してほしいと思います。

闘病中は、病気以外の面で悩むことがたくさんあり、それは病院の友だちも同じでした。悩みを多方面の分野で支えてくれる方々に相談することで、病気を告知されたときから治るまでのいろいろな場面の助けになると感じました。この『おきなわがんサポートハンドブック』を読まれている方々が、この本から多くの情報を得て支援とつながり、病気に明るく向き合って過ごしていただけたらよいと思います。

(20代 女性)

小児がん類似疾患経験者支援サークル「Ti-da わらば一む」 →P50  
子どもの療養を支えたい →P60